



# 公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団

## 活動パンフレット



▲詳しくはこちら

2025年4月



### 京都新聞社会福祉事業団の活動

京都新聞社会福祉事業団は、2025年3月18日に設立60周年を迎えました。1965年（昭和40年）3月18日、京都府・滋賀県の地域福祉の発展に寄与することを目的に、京都新聞社が取り組む社会福祉事業を統合し、財団法人として発足しました。

皆さまからお寄せいただいたあたたかいご寄付は、当事業団の福祉活動を通じて、京都府・滋賀県の地域福祉を支える大きな力となっています。

さまざまな事情で学費の捻出が困難な生徒・学生を支援する「愛の奨学金事業」、障害のある方の自立や社会参加を応援する「障害のある人のための事業」、高齢者の生きがいづくりを支援する「高齢者のための事業」、子どもたちの成長と明るい未来を支える「子どものための事業」、子育てに悩むお母さんをサポートする「子育て応援事業」、福祉施設の活動を支援する「福祉活動支援事業」など、地域に根ざした福祉活動に、すべて大切に活用させていただきます。皆さまのご厚意を大切にしながら、これからも「ともに生きる」社会の実現を目指してまいります。

**1**  
奨学金  
2~3P

**2**  
障害者  
4~9P

**3**  
高齢者  
10~11P

**4**  
子ども  
12~13P

**5**  
子育て  
14~15P

**6**  
福祉活動  
支援  
16~17P

**7**  
顕彰  
18~19P

# 1

## 奨学金



### ◆京都新聞愛の奨学金（贈呈式7月／京都新聞文化ホール）……………2-3頁

京都、滋賀に在住する高校生、大学生、専門学校生らを対象に、返済不要の奨学金を支給しています。本事業は、家庭の経済事情などにより学費の捻出が困難な生徒・学生を支援するために、当事業団の発足以来、60年以上にわたり継続しているものです。

●奨学金は、以下の4つの部門で支給しています。

- ①一般の部（公募） ②交通遺児の部（公募）
- ③定時制・通信制高校生の部（公立高校から推薦）
- ④児童養護施設の高校生への奨学激励金

●支給額は、高校生一人あたり年額9万円、大学生・専門学校生には年額18万円を支給。児童養護施設（京都・滋賀の17施設）に在籍する高校生には奨学激励金として3万円を支給しています。

●2024年度の支給実績

①一般の部：189人（計2,646万円） ②交通遺児の部：12人（計162万円）

③定時制・通信制高校制の部：10人（計90万円）

④児童養護施設の高校生への奨学激励金：145人（計435万円）

合計356人に対し、総額3,333万円を支給しました。

### 児童養護施設の高校生への奨学激励金（2024年7月22日付 京都新聞朝刊）

#### 奨学激励金435万円贈呈 児童養護施設の高校生145人へ

京都府、滋賀県内の児童養護施設で暮らす高校生を対象とした京都新聞社会福祉事業団の「奨学激励金」贈呈式が19日、京都市中京区の京都新聞社で行われた。

激励金は、事業団に寄せられる市民や企業、団体などからの「児童養護施設・乳児院等の子どもたちのための事業」寄付金を原資に1人当たり3万円を贈っている。



贈呈式では、全17施設から出席した施設長や担当職員らに、寄付者からの思いを伝え、高校生145人分、総額435万円の激励金が、同事業団の白石真古人常務理事=写真左

=から手渡された。生徒への支給は施設を通じて行われる。

贈呈式の後、施設長らとの懇談を行い、「就職より進学を目指す生徒が増え、大学受験のために活用します」「児童手当がもらえる年齢を過ぎてから入所てくる子どもが増え、18歳の退所時に自立資金が少ない子もいて経済的な支援は助かります」「寄付者の皆さんのが応援してくれている事をしっかりと伝え、激励金を一人一人に手渡したい」などの声が寄せられた。

# 2024年度 京都新聞 愛の奨学金 贈呈式

(2024年7月22日付 京都新聞朝刊)

京都新聞社会福利事業部の2024年度「京都新聞愛の奨学金」贈呈式が6日、京都市中京区の京都新聞社で行われ、物価高騰など厳しい経済状況下、将来への目標と希望を抱いて学ぶ京都府と滋賀県内の学生・生徒合計356人に内訳は、公募一般の部で高校生84人、大学生・専門学校生105人、交通環境の部で高校生6人と大学生6人、公立高が推薦した定時制・通信制の部で10人。19日には奨励金を児童養護施設の高校生145人に贈った。

大蔵恵志・佛教大社会学部教授、伊住公一朗・京都青年会議所理事長、横江美佐子・京都市南青少年活動センター所長の選考委員

3人が成績に加え、作文などで将来への思いや現在の学業に対する意欲をくみ選んだ。

一般の部には高校生176人と大学生・専門学校生224人、計400人から申請があった。ひとり親家庭が半数を超えて、物価高、親の失業、家族の病気入院など困難な事情を申請理由にあげた。

江委員も「作文を通じ、皆さんが高い将来の夢や希望を持ち、日々の勉学や部活動に励まれていることを知りました。奨学金を有意義に活用し、他者の存在に気付けるような大人になってください」と激励しました。

滋賀県内の医科大学で学ぶ女子学生は地域医療に关心を持ち、勉学や課外活動に励んでいます。しかし、授業やテスト勉強が忙しく、夏休みなども実習や課外活動でアーバイトの時間が十分にとれないと。奨学金にはこれまで「教科書代や病院見学の費用に充てること」ができる、学習に集中する大きな理由といい。獎呈式の謝辞では「寄せられた期待に応え、医師になり、誰かを助け、応援し、社会に恩返ししたい」と話した。

目標や夢へ善意の後押し  
他者の存在気付ける大人に



◆ 京都新聞愛の奨学金を贈呈 ◆

贈呈式では代表の生徒(右)に白石真人常務理事から授業料が手渡された(6月1日、京都市中京区の京都新聞社)

学生・生徒356人に3333万円

日にちなみ、年齢に100円をかけて寄付をする本紙の「誕生日おめでとう」「一ノ一人への寄付や、奨学金事業協賛寄付金、交通遺臣のための寄付金などを加えて支給している。高校生は年額9万円、大学生・専門学校生は同18万円が返済不要で給付される。奨学激励金は3万円が贈られた。

困っている学生のためにと20年度から一千五百万円以上の寄付を続けている左京区の匿名女性から今年度も、一千五百万円の寄付があり累計6千五百万円となつた。山科区の女性からの寄付500万円など、無償の善意が続いている。

贈呈式では、京都市内の男子学生は「4年生の今年は卒業論文準備の資金に奨学金を充てたい」と考えていたが、将来は高校教員をめざすとの目標を踏まえ、「社会に出ても常に謙虚に、感謝の心を



## ◆障害のある人のための事業

障害のある人が社会の一員として自立し、豊かな生活を送るために、就労支援や文化・スポーツ活動の機会を広げることが重要です。当事業団では、障害のある人の社会参加を促進し、生活の質の向上を図るため、就労支援、体験活動、スポーツ、芸術文化など多岐にわたる事業を展開しています。

### ◇助成事業

「障害のある人の工賃増へ向けての取り組み」助成（2～3月） ..... 17頁

障害のある人の工賃増を目指す支援事業所などの取り組みを助成 ※2025年度は一時休止

「京都新聞夏季キャンプ・レク活動を応援」助成（6～9月）

障害者団体や支援グループなどが実施する宿泊を伴う、夏季のレクリエーション活動を助成

### ◇催 事

「京都手話フェスティバル」（2月／京都新聞文化ホール） ..... 5頁

手話の普及と発展を目的に、手話スピーチコンテストや手話アトラクションを実施

シンポジウム「障害のある人の就労支援」（2月／京都新聞文化ホール） ..... 6頁

障害がある人の就労支援について考えるシンポジウム

「みんなで海釣り－障害のある人の体験講座」 ..... 7頁

（9月／1泊2日・宮津市 京都府立海洋高等学校 桟橋）

障害のある人の余暇活動の支援をする1泊2日の海釣り体験 神戸新聞厚生事業団と共同で実施

「京都新聞おでかけ公演・障害者団体」（3月で2カ所） ..... 11頁

障害者施設に演奏家らを派遣する出張型公演事業 障害者施設と高齢者施設で開催

### ◇障害者スポーツ事業

障害のある方々が参加できる多彩なスポーツ事業に取り組んでいます

全京都障害者総合スポーツ大会（6～10月／京都府内各地） ..... 8頁

7競技（卓球バレー・卓球・水泳・陸上競技・アーチェリー・フライングディスク・ボッチャ）を実施

全京都車いす駅伝競走大会・ミニ駅伝競走大会（9月／京都府立丹波自然公園）

丹波路を舞台に車いすアスリートが力走する伝統ある駅伝大会

天皇杯 全国車いす駅伝競走大会（3月／国立京都国際会館前一たけびしスタジアム京都）

全国の車いすアスリートが集結する全国規模の駅伝大会

京都ゆとりスポーツの集い（5月／山科区 勧修寺公園グラウンド） ..... 9頁

京都府内の精神科病院やクリニックの患者同士がソフトボールを通じて、交流を図る大会

パラアーティスティックスイミングフェスティバル ..... 9頁

（10月／京都市障害者スポーツセンター）

障害の有無に関わらず、ともにASを通じて交流し、技術の向上を目指す大会 など

## 京都手話フェスティバル

(2025年3月17日付 京都新聞朝刊)

ともに生きる

書・杭迫柏樹

### ◆ 第20回京都手話フェスティバル ◆



●審査員の林丘寺副住職の天野弘堂さんから特別賞が小野昌宥さん贈られた(京都市中京区・京都新聞文化ホール)  
◆豊かな表現でパフォーマンスしたホワイトハンド「コーラスNIP」  
PON京都チーム

一般の部と高校生の部では他にも次の皆さんのが入賞した。

【一般】優秀賞 萩野志穂

▼京

都新聞社会福祉事業団賞

山花晴

喜【高校生】優秀賞

長井優奈。

子どもの部の8人には記念品が贈

られた。

審査委員長の吉田航・京都府聴覚障害者協会会長は「テーマの『未来』からとても元気をもらつた」と講評したうえで、特別賞について「100歳までがんばるという小野さんに負けない気持ちを私たちも抱き続けたい」と敬意をこめてたたえた。

アトラクションで登場したホワイトハンド「コーラスNIP」

京都チームは、障害のある子もな

い子も参加する。手話言語をベ

スに表現する「サイン隊」と合唱

の「声隊」が、北区の寺院や京都

表の機会は京都市など国内にとどまらず、オーストリアの首都ヴィ

ーンで公演したこともある。

この日は「だれにだつてお誕生日」「花は咲く」などのレパート

リーを、時には客席まで降り立つパフォーマンスや明るく豊かな表情、手や全体の動きを交えて表

## 笑顔で妻に「オハヨー」

## 手話で語り合う朝

聴覚障害者問題への関心を高め、手話スピーチで生き生きと語る機会として「京都手話フェスティバル」が2月23日、京都市中京区の京都新聞文化ホールで開かれた。第20回という節目を記念して特別賞が贈られ、海外でも公演した「ホワイトハンド」「コーラスNIP」「PON京都チーム」が元気いっぱいにパフォーマンスを披露した。

京都府聴覚障害者協会と京都新聞社会福祉事業団が主催した。一般的の部にはサークルや地域団体などで手話を学ぶ11組、高校生の部には3人が「未来に向けて」などのテーマに沿って、子どもの部は自由テーマで8人が手話でスピーチした。

一般的の部で最優秀賞に選ばれた

のは英語講師下田奈都子さんだつた。英語教室でのコーダと呼ばれるるう者の母をもつ生徒が体験レッスンを一人受けたエピソードがきっかけで手話を学ぶようになつたという下田さんは「私の教室にろう者のお母さんとコーダの子が来たら、全部手話で説明をしたい。お母さんと直接話したい」と目標を語った。

難聴の夫婦とともに手話を習つているという88歳の小野昌宥さんは、特別賞に輝いた。「朝起きて笑顔

でオハヨーと手話で声をかけます。100歳まで元気で習い、いつまでも手話を使って夫婦がなによくとも暮らしていきたい」とスピーチすると客席からひととき大きな拍手がわいた。

高校生の部で最優秀賞に選ばれた京都八幡高の山下心優さんは、ボランティア活動で子どもと接し体験にもとづいて「将来は作業療法士になり、障害のある人が少しでもすこしやすい環境づくりをしたい」と夢を伝えた。

## 「未来」テーマにスピーチ、交流

この日は「だれにだつてお誕生日」「花は咲く」などのレパートリーを、時には客席まで降り立つパフォーマンスや明るく豊かな表情、手や全体の動きを交えて表

## シンポジウム障害のある人の就労支援

(2025年3月11日付 京都新聞朝刊)

障害のある人の就労支援を考えるシンポジウム（京都新聞社会福祉事業団主催）が2月16日、京都府中京区の京都新聞文化ホールで開かれた。障害者雇用をすすめる地元企業の経営者や働く当事者、サポートするネットワーク関係者が講演し、取り組みが紹介された。家族や支援者も含め約110人が参加、雇用を前にした職場実習の重要さや環境整備や支援機関との連携、現状での課題についても認識を深めた。

初めてに白石真古人・同事業団常務理事が「このシンポは、障害者が地域の中でいきいきと働き、普通に暮らしていける『共生社会』の実現を目指して15年前から開催している」とあいさつした。

講演1部では、京都中小企業家同友会理事で、自らも重度と軽度

ともに生きる

書・杭迫柏樹

### ◆シンポジウム ◆「障害のある人の就労支援」◆

#### シンポジウム 障害のある人の就労支援

主催：公益財團法人京都新聞社会福祉事業団 後援：京都府、京都市、京都府工業議会、京都中小企業家同友会、協力：COCO・さとう



参加者からの質問に答える  
講師の（左から）芳賀さん、  
渡邊さん、当事者の3人  
(2月16日、京都市中京区)

の知的障害のある双子の高校生を持つ芳賀久和氏が、その立場を踏まえ、「障害者雇用における中小企業と地域との連携」の題で、雇用や家族支援に取り組んできた経験や思いを話した。

芳賀さんは「同友会は人を企業や地域の中で生かしていくことを考えている。働きにくさを抱えている人たちの働きたいという思

い、意欲をしつかりと応援していくたい」と話し、具体的な事例も紹介。障害者雇用では「雇用した人とコミュニケーション力が向上し、職場全体の離職率が低下した」など

の効用もあげた。2部では職場実習や雇用を積極的に行っている清掃・ビルメンテナンス会社を経営する渡邊真規氏と同社で働く当事者が、職場体験・実習の必要性や経験、環境整備などをテーマに話した。

さらに渡邊さんは「障害者の能力を生かせる職場とはどういうものか。重度障害者の幸せな社会とは何か。働く事例を増やしていくことで認識をえていくことが必要では」「企業からのニーズがどれだけあるかわからないが、まず環境整備が必要。労働力がひつ迫している状況は、障害者などいろんな人が働くチャンスでもあると見える」と続けた。当事者は最後に「社会では障害者として見られることが多いが、可能性のある人と見てほしい。本人の自己肯定感にもつながる」と締めく

づいた。

勤いたお金で趣味の爬虫類や魚類を買い飼育を楽しんでいるといふ。「週一回の定期清掃は手順を覚えるのが大変だった。仕事を通じてできることが増えてきた。30歳ぐらいには頼られる人になりたい」と意欲的に話した。

また職場実習については「職場の人気が親身になってくれているのを感じた」と振り返った。実習に関して、終盤の質疑応答で芳賀さんは「企業と当事者をマッチングする場合、雇用を求めているのか、体験しに来ているのかを職場側が見極めることも大切」と言いった。渡邊さんは「採用の時には、働く能力というよりも会社に合うかどうか、他の同僚と合うかどうかを考えることが大切」と指摘した。

## 雇用前の体験・実習の必要性を認識

# 会社、同僚と合うかどうか

（ライター 山本雅章）

## みんなで海釣り-障害のある人の体験講座

(2024年9月23日付 京都新聞朝刊)

障害のある人たちの余暇活動として開いている「みんなで海釣り-障害のある人の体験講座」(主催・京都新聞社会福祉事業団、神戸新聞厚生事業団)が今年も、8月24日、宮津市であつた。京都、滋賀、兵庫の3府県から介助者と合わせて52人が参加、ボランティア124人も加わった。府立海洋高校棧橋では、50歳級のチヌに歓声があがるなど、にぎやかに大小の魚を釣り上げ、交流を楽しんだ。1998年から毎年開かれており、コロナ禍の中断後に昨年再開された。

7日は、府立青少年海洋センター・マリーンピアで開講式が開かれ、海洋高生の講座「海のふしきについて」もあった。19人の生徒4グループが岩ガキ養殖やプラスチックごみによる海汚染、海の

環境保護などについて発表した。岩ガキ養殖では、エサもいらず水質を改善するなどのメリットの一方、成長には4、5年はかかることや海から揚げて殻まできれいに手間がかかるなどの点も伝え、味が良いことを強調した。ヒレに毒があるアイゴも調理の工夫で美味になると発表された。夜には、釣り方や危険な魚の見分け方、救命具のつけ方を学んだ。

8日朝には海洋高で約70人の同高生・教職員やボランティアらが迎えた。参加者は、夏のような日差しの棧橋で魚釣りに挑戦し、ハタやカマスなどを釣り上げた。同好団体の会員らは、釣り針にエサをつけたり釣った魚を網でくくうなど手助けをした。

京都市伏見区から6回目参加の山本勇太さん(19)・新一さん(55)親子は、「今日はまだ釣れんけど、小学生で初参加した時に大漁だったんで、再現を狙つてよく参加します」と系を垂らした。

# ともに生きる

書・杭迫柏樹

### ◆ みんなで海釣り- 障害のある人の体験講座 ◆



## 3府県から170人超参加 桟橋でトライ、大物に歓声

### 海洋高生手助け、交流にぎやか

左京区の畠田めぐみさん(58)は初参加。今回で15、16回目の参加という夫の弘呂志さん(64)は釣りは自分で行くけど、この講座はいろんな人の交流が楽しめる」とし、「今日は全然釣れんなあ」と言いつつ満足顔。左京区の母親の文子さん(42)は昨年に続いて2回目の参加。「子どもとともに同じ高校生と一緒にアジやカワハギを釣り上げ、「たくさん釣れれば家でおかず」と笑顔を見せた。

右京区から初参加の近藤聖一さん(79)は脳梗塞の後遺症や心臓に不安があり、「以前は大阪湾などにも行つたが病気もあって機会がない。久しぶりの釣りは海も周囲の山の緑もきれいで、気が安らぐ」と釣りざおを握った。高校生と一緒にアシやカワハギを釣り上げ、「たくさん釣れれば家でおかず」と笑顔を見せた。

兵庫県三田市の依藤準平さん(42)は、翔太さん(8)を連れ来れた。翔太さんは「今日はまだ釣れんけど、親子は「今日はまだ釣れんけど、小学生で初参加した時に大漁だったんで、再現を狙つてよく参加します」と系を垂らした。

主な協力団体は次の通り。  
【後援】京都府、宮津市、宮津市社会福祉協議会、KBS京都  
【協力】日本釣振興会近畿地区支部、京都府社会福利協議会、MFG、GFG、京都府漁業協同組合、訪問看護ステーションふおすたあ伏見【協賛】アサヒフーズ、がまかつ、東レ・モノフィラメント、ハイブサ、マルキュー、マルコ

## 全京都障害者総合スポーツ大会

(2024年6月24日付 京都新聞朝刊)

# 卓球バレー いきいき

全京都障害者スポーツ大会 開幕

障害がある人が交流する「全京都障害者総合スポーツ大会」が23日、京都市北区の島津アリーナ京都で開幕した。開会式に

続いて、卓球バレー大会が行われ、参加者約250人がさわやかな汗を流した。

同スポーツ大会は1981年の国際障害者年を契機に始まり、今回で44回目。京都障害者スポーツ振興会などが主催している。10月までに、ボッチャや水泳、陸上競技、アーチェリーなど7種目が順次行われる。

開会式では、主催者を代表して川端一彰同スポーツ振興会会长が「この大会を通じて、障害

のある人のスポーツ活動が一層盛んになればと願う」とあいさつした。

6人1チームが卓球台を囲んで、音が出るピンポン球を打ち合う卓球バレーには、一般、学校、施設の3部門に計31チームが出席した。木板で球を激しくたたいたり、ブロックしたりするなど迫力ある攻防が展開された。

選手宣誓をした京都教育大附属特別支援学校Bチームの同校高等部3年の野原壯真さん(17)は「最後まで全力で諦めずにプレーしたい」と話していた。

(生田和史)



勢いよく球を打ち合う卓球バレーの選手たち  
(京都市北区・島津アリーナ京都)

## 京都ゆとりスポーツの集い

(2024年5月27日付 京都新聞朝刊)



### 交流と社会参加促進願い 山科でソフトボール大会

精神障害のある人たちがスポーツを通じて交流する「京都ゆとりスポーツの集いソフトボール大会」が17日、京都市山科区の勧修寺公園グラウンドで行われ、約50人が参加した=写真。

精神科の病院やデイケアに通院、通所している人の健康増進や社会参加促進を願い、府内の精神科病院やクリニックでつくる実行委員会と京都新

聞社会福祉事業団が共催し、44回目。

今回は3チームが参加し、試合を楽しんだ。試合ではホームランが飛び出したり、鋭い打球や難しい打球を好捕する好プレーが続出したりするなど、熱戦が繰り広げられた。ベンチからは選手に声援が送られて試合を盛り上げた。選手たちは試合を通して交流を図った。五月晴れの日差しの



強いなか、選手たちは心地よい汗を流していた。

京都民医連あすかい病院（実行委員会事務局）の福田寛さんは「患者さん同士が体を動かしながら交流する機会となっていきます。今後も続けていきたい」と話していた。

## パラアーティスティックスイミング フェスティバル

(2024年10月14日付 京都新聞朝刊)

障害のある人とない人がともに演技する「パラアーティスティックスイミングフェスティバル」が6日、京都市左京区の市障害者スポーツセンターで行われ、約120人が参加した=写真。

日本パラアーティスティックスイミング協会などが主催した。今回は



パラアーティスティックスイミングとともに水中の華に京都をはじめ、東京や埼玉、石川、愛知、兵庫など8都府県のほか、台湾からの海外チームも参加し、14団体がソロやデュエット、チームなど6種目に分かれ35演技を行った。チームの部では障害のある人との人が音楽に合わせて列や輪になるなど、さまざまな隊形を演じた。

参加者は日頃の練習の成果を発揮し、華麗な演技を披露した。観覧席からは演技が終わるごとに拍手が送られた。

印象深かった演技に贈られるナイスパフォーマンス賞には、チームIの部でSUN&WEEDS：明（石川県）、ソロの部で高田秀一さん（愛知県）、チームIIの部でマーチボーグ（東京都）が選ばれた。



# 3

## 高齢者



### ◆高齢者のための事業

少子高齢化が進む中、高齢者が安心して暮らせる社会の実現に向けた支援が求められています。当事業団では、高齢者の生活を支えるため、外出機会の創出、介護用車椅子の贈呈、在宅福祉支援など、さまざまな事業を行っています。

### ◇助成事業

#### 在宅高齢者福祉サービス支援「ホームヘルプサービス活動に関する備品助成」

(12月)

在宅高齢者へのホームヘルプサービスを行う非営利団体に対し、福祉・介護用品の購入費を助成

「高齢者配食サービス支援」贈呈（1月） ..... 10頁

一人暮らしの高齢者世帯に配食を行うボランティアグループや団体におこめ券を贈呈 ※2025年度から休止

「高齢者へのプレゼント」贈呈（2月） ..... 11頁

特別養護老人ホームへ介功用車いすを贈呈

### ◇催 事

「京都新聞おでかけ公演・高齢者団体」（3月で2カ所） ..... 11頁

高齢者施設に演奏家らを派遣する出張型公演事業 高齢者施設と障害者施設で開催

### 高齢者配食サービス支援（2025年2月11日付 京都新聞朝刊）



配食ボランティア

32団体におこめ券贈る

京都新聞社会福祉事業団は、1人暮らしのお年寄りや高齢者世帯に食事を届けている京都・滋賀の配食ボランティア32団体に計2700食分の「おこめ券」を贈呈した。

毎年、高齢者事業寄付金や歳末ふれあい募金の一部をもとに実施。本年度は京都市内5、京都府内12、滋賀県内15の計32団体に419キロ分（高齢者1人当たり1食150グラ

ム相当）のおこめ券を配食に役立てもらう。

京都市北区の京都生協「くらしの助け合いの会」配食グループは6日、同区のきぬがさ会館で12人がおこめ券で購入した米を炊き上げ、サバの塩焼きやだし巻き、ホウレンソウとシメジのかつお和え、だんごいちごジャムのせなどを添えた弁当110食=写真=を、1



人暮らしの高齢者らに届けた。

同会は生協の組合員がボランティアで活動し、配食グループは週1回、高齢者の見守りを兼ねた配食活動を行っている。代表の東山敏子さん(85)は「お米が値上がりしている中での支援はとても助かります」と話した。

## 高齢者へプレゼント

(2025年3月11日付 京都新聞朝刊)

京都新聞社会福祉事業団は、「高齢者へのプレゼント事業」として京都府、滋賀県内の特別養護老人ホーム7施設に介助用車いすを各1台贈呈した=写真。2008年度から毎年実施し、贈呈数は299台となった。

企業や団体からの本紙「記念日おめでとうコーナー」や高齢者事業協賛寄付金などを原資にしている。

背もたれと座面角度が調整できるティルト・リクライニング介助型と、ひじ置きと脚部が動かせる多機能介助型の2種類から選択。

特別養護老人ホームすばる醍醐（京都市伏見区）は前者を選び、白石真古人・同事業団常務理事が入居者の試乗に寄り添った。吉野鍾八施設長（59）は「離床機会が増え、座

計7台、メリハリある生活後押し



位保持が困難な方にもメリハリのある生活をしてもらえる。不足していたので助かります」と話した。

他の贈呈先は次の通り。

鳥羽ホーム（南区）、まどかⅡ番館（伏見区）、マ・ルート（宮津市）、南天（大津市）、あじさいの郷（長浜市）、えんゆうの郷（草津市）

## 京都新聞おでかけ公演

(2025年3月31日付 京都新聞朝刊)

### プロのデュオ演奏に手拍子

草津の事業所で「おでかけ公演」

京都府、滋賀県内の障害のある人や高齢者の施設や団体などを訪ね、楽しいひと時を過ごしてもらう「おでかけ公演」（京都新聞社会福祉事業団主催）が、このほど草津市の社会福祉法人こなんSSNシェスタで行われた=写真。

外出がしにくい人たちのためにと、2006年度から演奏会などの催しをプレゼントしている。本年度は、障害のある人と高齢者の各2団体で実施された。

同事業は、本紙掲載の「善意の小箱」や企業・団体からの「記念日おめでとうコーナー」などへの寄付金を基にし

ている。

公演は、京都フィルハーモニー室内合奏団に所属するバイオリニストの森本真裕美さんとファゴット奏者の田中裕美さんによるデュオ演奏会。クラシックの名曲や童謡など11曲が披露され、施設を利用する障害のある人たちが、演奏に合わせて知っている曲を口ずさんだり、手拍子をとったりして楽しんだ。施設長の田中悦代さんは「利用者の皆さんとプロの演奏が聞ける機会がないので、すてきな時間が過ごせました」と話した。



## 4

### 子ども



## ◆子どものための事業

子どもたちの健全な成長と明るい未来を支えるため、当事業団では多彩な活動を展開しています。児童養護施設へのレクリエーション支援や卒業お祝い金の贈呈、交通遺児への支援、親子で楽しめる子どもシアターの開催など、子どもたち一人ひとりの笑顔と希望を育む取り組みを行っています。これらの活動を通じて、子どもたちが安心して学び、遊び、成長できる環境づくりに努めています。

### ◇助成事業

「児童養護施設の子どもたちのレクリエーション」助成（9月～翌年3月） ..... 12頁

京都・滋賀の全児童養護施設に対し、レクリエーション活動を助成

「児童養護施設の子どもたちへの卒業お祝い金」贈呈（3月） ..... 13頁

中学・高校の卒業とともに京滋の児童養護施設を巣立つ子どもたちに「卒業祝い金」を贈呈

「交通遺児の子どもたちへの卒業お祝い金」贈呈（3月） ..... 13頁

交通遺児で小学校・中学・高校を卒業する子どもたちに「卒業祝い」として図書カードを贈呈

### ◇催 事

「京都新聞お楽しみ子どもシアター in 京都/in 滋賀」（8月） ..... 13頁

京都・滋賀で人形劇などの公演を開催し、子どもたちを招待

## 児童養護施設レクリエーション（2025年4月22日付 京都新聞朝刊）



「あいすづくりがたのしかった。またいきたいです」。京都新聞社会福祉事業団が2024年度に実施した「児童養護施設レクリエーション」に参加した子どもたちから感謝の気持ちの寄せ書きや思い出をつづった作文などが届いた=写真。

同事業は、京都、滋賀の全17児童養護施設に暮らす子どもを対象に1人2700円と引率費用1施設2万円を助成し、24年度は585人の子どもたちが参加した。



### 児童養護施設レクリエーション 感謝の声 届く

守山学園（滋賀県守山市）では、6グループに分かれて行き先を計画。高校生と小学生の女子のグループは自然の中にあるテーマパークに訪れ、頭脳や身体を使ってミッションを攻略しながらすすむ巨大迷路に挑戦したり、アイス作り体験や動物にふれあう旅行を楽しんだという。引率した職員は「子どもたちのたくさんの笑顔を見ることができ、成長を感じることができた」と感謝した。

同助成は、京都ゴルフ倶楽部（京都市北区）主催の「児童養護施設の子どもたちのために」と開催されているチャリティーゴルフ大会の参加者や企業からの寄付を主に、チャリティーコンサートや個人からの寄付金を活用している。

## 児童養護施設の子どもたちへの卒業お祝い金 交通遺児の子どもたちへの卒業お祝い金 (2025年3月11日付 京都新聞朝刊)



卒業シーズンを迎え、京都新聞社会福祉事業団は、京都府、滋賀県内の16の児童養護施設を巣立つ中学生4人、高校生59人に「卒業お祝い金」として総額244万円を贈った。

お祝い金は「児童養護施設の子どもたちのために」と寄せられた善意をもとに、中学生に1人2万円、高校生に同4万円を贈呈している。高校生5人が卒業する京都市伏見区の桃山学園

(畠段隆浩園長)では、同事業団の白石真古人常務理事が、代表の2人にお祝い金を手渡した=写真。

卒業生は「将来、イラストやアニメ関係の仕事をする目標に向け、まずは就職が決まった会社でがんばりたい」「興味がある資産運用を扱う企業に就

16児童養護施設、巣立ちに「お祝い金」



職できた。新生活に必要なものに活用したいなどと夢や希望を語った。

京滋の交通遺児に「卒業お祝い」として、図書カードを小学生7人(1人5千円分)、中学生9人(同7千円分)、高校生11人(同1万円分)の計27人に京都府や京都市、おりづる会(滋賀県)を通じて届けた。交通遺児のために寄せられた寄付を活用している。

## 京都新聞お楽しみ子どもシアター (2024年8月13日付 京都新聞朝刊)

京都と滋賀の子どもたちを招待する「京都新聞お楽しみ子どもシアターin京都」が12日、京都市北区の市北文化会館で開かれ、親子連れら約350人が

### 人形劇の世界 子ら夢中

北区でお楽しみシアター



海の生き物たちを演じる人形劇団  
京芸の団員(京都市北区・市北文化会館)

都新聞社会福祉事業団が主催する恒例イベントで、児童養護施設の子どもたちも招き、紙芝居や劇を上演している。今回は近畿を中心

に全国で活動する人形劇団京芸(宇治市)の団員3人が出演し、乳幼児向けの作品2本を披露した。

海を舞台にした物語「うみぼうやとうみぼうず」では、スチールパンの音楽に乗せてさまざまな生き物がステージ上を所狭しと動き回り、子どもたちは団員のコミカルな動作を見てはしゃいでいた。

娘の知歩ちゃん(2歳)と訪れた京都市北区の土田友美さん(36)は、「娘はテレビの人形劇が好きなので生で見てあげたいと思っていました。イルカが泳ぎ回るのを見て楽しそうだった」と話した。(浜田大地)

# 5

## 子育て



### ◆子育て応援事業

子どもたちの健やかな成長と、子育て中の保護者を支えるため、当事業団では二つの助成事業を実施しています。

### ◇助成事業

#### 「子育て仲間を応援」助成（7月） ..... 15頁

子育て中の保護者が交流し支え合うサークルや支援グループを対象に、1団体2万円を助成。2024年度は80団体に総額160万円を贈呈しました。2005年度に開始以来、情報交換や交流の場を支援しており、少人数グループにも助成する独自の制度として好評を得ています。

#### 「子育て事業助成」助成（7月） ..... 15頁

京都・滋賀で子育て支援を行う非営利団体を対象に、講演会や学習会、イベントなどの事業に対し、1団体あたり15万円を上限に助成。2024年度は17団体から応募があり、子ども向けキャンプや文化体験事業、お話しや音楽会、親子で楽しむゲーム、映画上映会、人形劇など、計13事業に83万8000円を助成しました。



## 子育て仲間を応援助成・子育て事業助成

(2024年5月14日付 京都新聞朝刊)

ともに生きる

書・杭迫柏樹

### ◆ 子育て応援事業 ◆

京都新聞社会福祉事業団は、京都府、滋賀県で工夫を凝らして子育てに取り組むグループに一律2万円を助成する「子育て仲間を応援」と、上限15万円でイベントなどを支援する「子育て事業助成」を毎年行っている。2023年度に支援した活動例を紹介する。

京都府京丹波町の絵本サークル「きいろいばつけ」は、結成2周年記念イベントに亀岡市在住の絵本作家北川チハルさんを招いて11月に地元の和知ふれいセンターで「絵本トークライブ」を開いた。同サークルは普段から和知小や「わちこども園」などで読み聞かせや、同センターでお話会「えほんはともだち」などを開いている。11月のイベントには乳幼児から小学生の親子約60人が参加。子どもたちは同センターのアリーナに敷

いたマットに座り、大型プロジェクトを使って展開された絵本トーキングで聞き入った。代表の藤本英子さん(57)は「事業助成金10万円を含めた予算で、講師を招き、絵本を効果的に展示する面展台も製作でき役立った」と話している。

滋賀県日野町の必佐地区社会福祉協議会のボランティアグループ「子育てひろば」は11月、草津市に住むシャボン玉のバフォーマーによる「シャボン玉ショー」を地

区内の内池公園で開いた。同グループは毎月2回、必佐公民館などで、未就園児と保護者ら十数組が大型遊具で遊んだり、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティーなど季節のイベントを行い、子ども同士の触れ合いや、保護者の情報交換・相談の場としている。

メンバーの一人、中西真さん(63)は「事業助成に自己資金を加え、人数制限もせず、普段よりも広い地域からの参加があり、大規模にシャボン玉イベントができる補助金が後押しになる」と言う。

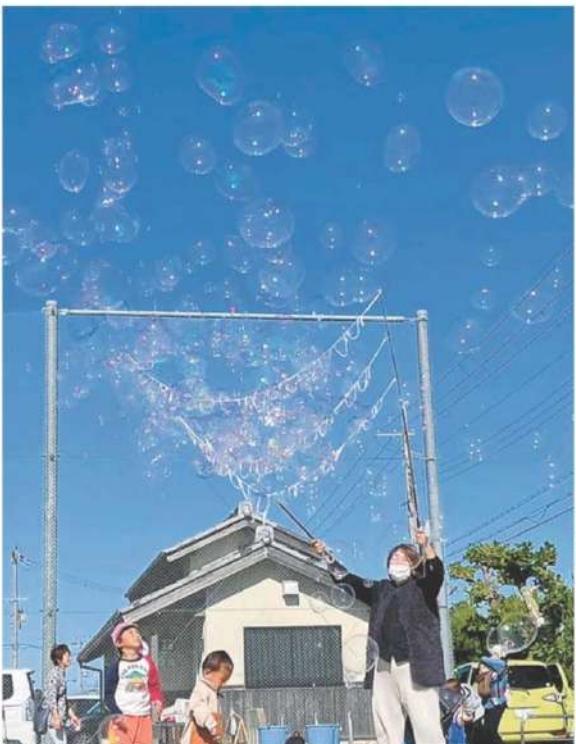
同じく「仲間を応援」助成を受けた「ゆらんこおもちゃライブラリー」は、西京区の西京児童館2階で田畠昌子さん(65)らボランティアが月に2回開いている。未就園児と母親らが対象で、木のおもちゃで遊び、夏にはうちわ、節分には鬼の面作り、折り紙なども楽しむ活動を続けている。

23年度は「子育て仲間を応援」で82団体(京都市内12、府内37、滋賀県内33)に総額164万円を「子育て事業助成」で計13事業(市内4、府内3、県内6)に総額83万5千円を助成した。

24年度の「子育て事業助成」と「子育て仲間を応援」の申請は5月31日まで受け付けている。

## 絵本作家トーク盛況

## シャボン玉催し手応え



## 小規模運営の継続後押しも

無数のシャボン玉や、とびきり大きなシャボン玉などを皆で飛ばし楽しんだ  
(2023年11月、滋賀県日野町) 提供写真

近所のお年寄りや通りすがりの人も集まり、写真を撮るなど盛り上がった。その後の「子育てひろば」への参加者増にもつながったかな」と助成の効用を感じている。

「仲間を応援」助成を受けた京都市右京区の「わたぼつし文庫」は、後藤由美子さん(70)の家を拠点に4人で運営。幼児から小学生の親子を対象に、本の読み聞かせや手作り工作などを毎月行っている。「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちなんだ桜もち、フルーツ寒天、月見団子、クリスマスクッキーなどおやつ作りも楽しんだ。手作り工作では、扇の絵をかいて組み立てたり折り紙などもした。後藤さんは「小規模な運営だが、継続している。」「コロナ禍」もほぼ終じた23年度は室内開催もでき、季節にちんだ

6

# 福祉活動 支援



## ◆福祉活動支援事業

地域福祉の充実を図るため、当事業団では多様な福祉活動を支援しています。

「京都新聞福祉活動支援」助成（2～3月）…………… 17 頁

京都・滋賀の福祉施設や団体を対象に、「運営支援」と「設備支援」の2部門で助成を行い、地域福祉の向上を目指します。支援対象は、障害のある人、高齢者、子ども、難病患者、生活困窮者の支援に取り組む団体など幅広く、1団体あたり50万円を上限に助成します。選考委員会では、地域福祉への貢献度、事業の推進力、期待される成果などを基準に審査し、助成先を決定します。

2024年度は、京都の企業から「障害のある人たちのために役立ててほしい」と500万円の寄付を受け、障害者団体や当事者団体5団体に各100万円を贈呈する特別枠を設けました。これにより、当初の助成額500万円と合わせ、総額1000万円の助成を実施しました。

★2025年度新規事業★

「オーシャン号（福祉車両）」贈呈事業（募集開始5月・贈呈式9月）

京都の商社（京都市中京区）会長からの個人寄付を受け、福祉団体や施設に福祉車両を贈呈する新規事業を実施します。シェアキャブ（車いす仕様車）、ワゴン車、軽自動車など計8台を「オーション号」と命名し、贈呈します。選考委員会で申請団体の財務状況、車両の必要性、利用計画などを厳正に審査し、贈呈先を決定します。プロジェクトの本格始動に先立ち、追加の一台「0号車」の贈呈をしました。



0号車贈呈式 2025年4月22日付 京都新聞朝刊

は貿易商社のオーシャン、京都新聞社会福祉事業部、田多智夫会長（84）から受けた多額の寄付を基に福岡市内を購入し、21日に京都市新聞社（同）で1台目の贈呈式を開いた。車両は「オーシャン号」と名付け、京都市と滋賀で活動する福祉施設や団体などに寄贈する。

米田さんは昨年、地域福祉などに役立ててほしいと供する市洛南障害者福祉会館（同）で送迎などに活用する予定で、前田文男理事長は「利用者の高齢化が進み、各家庭での送り迎えが非常に難しくなる中で非常に助かる」と喜んだ。

京都新聞社会福祉事業団

贈呈式に出席した米田さんは「有効かつ安全に使つてほしい」と願つた。同センターはデイサービスを提唱し、同事業団は今月、米田さんの名を冠した基金を設立した。車両の寄贈と給付型の奨学金事業に取り組む。残る車両8台の寄贈先は5月上旬から公募する。

(柿木拓洋)

オーシャン貿易会長の寄付活用  
**福祉車両 1台目を寄贈**



京都障害者福祉センターに寄贈された「オーシャン号」の0号車(京都市中京区・京都新聞社)=撮影・伊藤暢希

## 障害のある人の工賃増へ向けての取り組み助成

### 京都新聞福祉活動支援助成

(2025年4月7日付 京都新聞朝刊)



京都新聞社会福祉事業団は、2024年度の「京都新聞福祉活動支援」と障害のある人の「工賃増へ向けての取り組み助成」両事業の贈呈式をこのほど、京都市中京区の京都新聞社で行つた。写真。京都、滋賀両府県の福祉施設やボランティアグループなど39団体に総額1200万円を支援した。

福祉活動支援は同事業団の設立60周年を記念し、障害のある人の支援団体や当事者団体を対象に100万円を5団体に助成する特別枠と従来の上限50万円までを助成する運営、設備両部門で申請を受け付けた。特別枠5団体(申請9団体)に計500万円、運営16団体(同21団体)に計255万円、

設備7団体(同14団体)に計245万円、計28団体に総額1千万円を助成。高齢者や難病患者、不登校の子どもたちの支援を行う団体の活動費や障害者施設の老朽化した設備品の購入などに支援した。

工賃増助成では、障害のある人の工賃増につながる活動を支援しており、11団体(申請20団体)に計200万円を助成。お菓子などの商品を密閉するシーラー購入や下請け作業の除草に使用する草刈り機、革製品の縫製に使用するミシンの購入などを支援した。

助成団体は、次の通り。

◇京都新聞福祉活動支援

【設備部門】  
（運営）京都市身体障害者団体連合会（京都市中京区）、Refra me（同）

【運営部門】  
（設備）からしだねワークス（山科区）、地域活動支援センターいづみ（木津川市）、京都フォーライフ（京都府久御山町）

#### 【運営部門】

障害者芸術推進研究機構（京都市北区）、つるかめ笑顔クラブ（上京区）、京都府網膜色素変性症協会（中京区）、全国パーキンソン病友の会（京都府支部）（同）、サーキルたんぽぽ燐燐会（同）、お客様がいらっしゃる

年団を育てる左京センタ（左京区）、ハンド＆ネイルケアボランティア（ムガンチ）（同）、助けあいグループ（りぼん（東山区）、ジョイント西京視覚障害者ボランティア（西京区）、笑顔を届ける天使たちボランティアキッズ（伏見区）、京都子育てネットワーク（同）、逢坂アモーレ子ども食堂（大津市）、香こちーkokochi（同）、JAGUARの部屋（草津市）、竜法師村おこしの会にんにん広場（甲賀市）

#### 【設備部門】

Salut（京都市上京区）、障害福祉サービス事業所ちくもう（福知山市）、志津川福祉の園（宇治市）、

城陽市の精神保健福祉をすすめる会野の花（城陽市）、城山共同作業所（南丹市）、異才ネットワーク（大津市）、

◇工賃増へ向けての取り組み助成  
就労継続B型事業所つくしハウス（京都市上京区）、うさぎりんご（中京区）、就労継続支援B型事業所カラフルラット（南区）、京都市やましな学園（山科区）、就労支援事業所ひこばえ（右京区）、どもの家（綾部市）、宇治作業所のびのび（宇治市）、B型支援事業所カイコウM（大津市）、自立就労センター・パレット・ミル（栗東市）、自立訓練事業所かけはし・生活介護事業所うらら（高島市）

## 福祉活動支援や工賃増へ 39団体支援



## ◆京都新聞福祉賞・福祉奨励賞

(贈呈式 1月／京都新聞文化ホール) ..... 19 頁

京都府、滋賀県で地域福祉の向上に著しい功績のあった個人または団体に「京都新聞福祉賞」、活動歴10年未満の若い団体で今後の活躍が期待される個人または団体に「京都新聞福祉奨励賞」を贈り顕彰しています。

2023年度までは事業団の単独主催としていましたが、2024年度の設立60周年を機に、京都新聞との連名主催とし、京都新聞グループ全体で支える新たな形で再出発しました。1965年の事業団設立とともに「京都新聞社会福祉功労者表彰」としてスタートし、今年で61年目を迎えます。

福祉賞は個人20万円、団体30万円、奨励賞は個人・団体ともに10万円を贈呈します。推薦は新聞紙面などで公募し、選考委員会により決定します。これまでに個人192件、団体74件の、合計266件（2024年度時点）を表彰しています。2025年度も福祉賞・福祉奨励賞ともに2件程度の贈呈を予定しています。



## 京都新聞福祉賞・京都新聞福祉奨励賞 贈呈式

(2025年1月27日付 京都新聞朝刊)



京都新聞福祉賞を受賞した篠澤さん(左)  
=京都市中京区・京都新聞文化ホール 撮影・安達雅文

### 「愛の手で子ら支える」

#### 京都新聞福祉・奨励賞贈呈式

社会福祉の向上に著しい功績のあった個人や団体をたたえる「京都新聞福祉賞」と、福祉の各分野において将来のリーダーとして将来のリーダーとして将



ともに生きる  
[TOMONI-IKIRU]

## 公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団

京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞社内

TEL 075 (241) 6186 / FAX 075 (222) 2515



ホームページ  
が新しくなりました



X公式アカウントを  
フォローしよう



電子決済による  
寄付受付をはじめました